

## 第三者意見

### THKへの期待は尽きない

—日本のものづくり技術発展のため—

私は大学で30数年、停年後に技術開発企業を創業して15年、合わせてものづくりの研究開発に携わって50年になります。この間東大の生産技術研究所で、停年後の2000年からは、台湾の鴻海（ホンハイ）精密の出資によるファインテック社で技術開発を行ってきました。

大学教官時代は成形加工から機械加工分野まで、自身の興味の赴くまま、広範囲の機械的なものづくりの研究を扱いました。大学研究者が守備範囲を拡大することは、専門内容の深みに欠けることになりがちですが、私の場合、他分野を手掛けた時の方がより革新的なものづくりを生み出すことができました。

中小企業のものづくり企業が集積する東京大田区に、ものづくり技術開発会社を創業して15年が経過しました。この間、企業でのものづくり技術の研究開発の難しさを身に染みて感ずる毎日です。大学での研究は、研究成果は主に論文で、その成果がものづくりに何らかの示唆を与え、改良や改革に結び付けばヨシとされました。さらにその相手は不特定の製造業、しかも世界中が相手で研究成果の活用時期が将来であっても許されました。しかし、中国最大の巨大製造業となった“鴻海精密”のためのものづくり技術開発となると簡単ではありません。何しろ、世界最高級の生産設備を駆使し、それを上回るレベルのものづくり技術開発でなければなりません。また名だたる大量生産を得意とする企業なので、大量生産が前提となります。さらに最終の顧客は一流企業で、その生製品の精度や品質は厳しく、常に最高レベルが要求されます。従って、新たな工法を提案するだけでは駄目で、実際に生産設備を開発し、それを使ってみて“結果が良ければ採用して

やる”といった対応となります。これは大学で育った私にとっては極めて厳しい障壁でした。何しろ、途上国企業が生産技術者の多くは、市販の生産設備の調達の主たる役割で、開発の苦労等を理解できない人ばかりです。それでも我が社のような小さな開発企業が存立する恵まれた環境が日本には存在します。機械装置の設計開発だけでなく電装品やソフト開発もしてくれる会社もあり、成形機や工作機械までも特別仕様のもものも造ってくれます。

このような生産設備開発に関与するようになり、日本には優れた機械設備を開発し製造するインフラが充実している環境だと認識を新たにしました。以前、途上国の研究機関で相談に乗った時、せっかくの素晴らしい技術開発課題であってもそれを実現するには、殆どの機材を日本から輸入しなければならないことがありました。その点では、今の日本は新技術や新製品を実現するための環境としては世界一恵まれているのではないのでしょうか。Apple社が横浜に研究所を開設する理由もよく理解できます。

大学に勤務時代、THKのものづくりの相談に乗ったこともありましたが、今ではTHKのLMガイドを始め多くの機器のお世話になる立場となっています。設備や機器開発で耐久性と信頼性の高い高度な設備を作るには、使用する装置の機械要素自体のレベルが高なくては到底優れた装置が実現できません。このような基本の機械要素部品は、その機能を常に進化させ続けて欲しいのです。THKは創業者による独自のLMガイドの発明が基盤にあります。その後多くの機械装置用機器を次々と開発製造されており、日本の機械産業の繁栄に大きく貢献しています。顧客の要望を聞いては限がないと思われるかも知れませんが、これからの企業の社会的責任と捉えていただいて、自ら先頭を走って日本の製造技術高度化に貢献し続けていただきたいのです。



ファインテック（株）会長 中川 威雄 様（東大名誉教授）

**略歴：**1938年生、東大精密工学科卒、1979年東大生産技術研究所教授、1999年東大名誉教授、理研名誉研究員。大河内賞、ASME/SMEのMerchant Medal等を受賞。2000年ファインテック社創業、現在代表取締役会長、さらに、ファナック、ツガミ、オーエスジー、日本ピラーの社外取締役、Foxconn特別顧問、日本電産顧問を兼務。

## 編集後記

---

第9号のCSRレポートを無事発行することができました。本年度は阪神・淡路大震災から20年を迎え、T H K 製品が皆様の資産をどう守っているかを検証しました。また、地方創生の一役を担いたいとの思いから、用水路を利用した水流発電への取り組みを、そしてT H K リズム社が省エネへの取り組みが評価され、環境大臣表彰を受けた内容について掲載しました。

また、経年で紹介しているガバナンス・コンプライアンス体制、人財活用や地域社会に積極的に関わる姿勢、地球温暖化防止に向けた取り組みをお伝えしました。

今後もCSR活動を全社一丸となり積極的に推進し、その結果を皆様にお伝えしていく所存です。つきましては、今回のレポートをお読みになった皆様方がどのような感想をお持ちになったのかご意見を賜りたく存じます。皆様方の貴重なご意見は今後のCSR活動やレポート作成の参考にさせていただきます。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見・ご感想を同封のアンケート用紙にてお寄せいただければ幸いです。

CSRプロジェクト事務局  
(次回発行予定2016年9月)

# THK株式会社

〒141-8503 東京都品川区西五反田3-11-6

TEL. 03-5434-0300 FAX. 03-5434-0305

Web [www.thk.com/jp](http://www.thk.com/jp)

